

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
柔道整復学10							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名		実務経験		
柔道整復学科・昼間部	2年	2期	伊藤 恵里		○		
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数	
専門分野	臨床柔道整復学			座学	1	10	
科目概要							
<p>手部というADLに重要な部位の外傷を学ぶ。柔道整復師として取り扱うことが多々ある部位でもあるので、受傷機序～鑑別診断～整復・固定・後療法～予後という一連の流れを想定することができるよう、それぞれの部分で学習をする。</p>							
目標							
<b>一般目標(GIO)</b> <small>本講義を学習することで達成されるべき目標</small>	柔道整復師として外傷の対応を正しく行えるようになるため、手・指部の骨折・脱臼・軟部組織損傷の鑑別診断、処置、後療法、予後における対処で誤りが無いよう、必要な知識を習得する。						
	<b>到達目標(SBO)</b> <small>一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)</small>	1. 外観・受傷機序から該当する外傷を予測できる 2. 手部・手指部の構造について理解できる 3. それぞれの外傷に対する症状を理解できる 4. それぞれの外傷に対して適した処置(整復・固定・後療法)を理解できる					
履修に必要な予備知識や技能							
柔道整復理論の総論および解剖学的知識(特に骨格・関節・筋・神経部分)が重要となる。							
教科書・参考書							
教科書:『柔道整復学・理論編 改訂第6版』 参考書:『柔道整復学・実技編 改訂第2版』							
受講上の注意							
講義中の私語・居眠りはしないこと。講義内容は進捗度合いにより変わるので承ください。携帯やタブレット等の端末機器はカバンにしまい使用しないこと(調べるものは教科書で確認してください)。講義を受講するにあたり、必要のないもの(携帯・財布・バック・洋服・帽子など)を机の上に置かないこと。							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)	100						100
回数	授業内容			教科書	教材・持ち物		
第1回	中手部～手指部の解剖			P.325-327	教科書・ノート・筆記用具		
第2回	既習範囲復習、中手骨骨折①			P.328-330	教科書・ノート・筆記用具		
第3回	既習範囲復習、中手骨骨折②			P.330-332	教科書・ノート・筆記用具		
第4回	既習範囲復習、手根中手関節脱臼、指骨骨折①			P.332-334	教科書・ノート・筆記用具		
第5回	既習範囲復習、指骨骨折②			P.334-339	教科書・ノート・筆記用具		
第6回	既習範囲復習、中手指節関節・指節間関節脱臼			P.339-344	教科書・ノート・筆記用具		
第7回	既習範囲復習、手・指部の軟部組織損傷①			P.344-348	教科書・ノート・筆記用具		
第8回	既習範囲復習、手・指部の軟部組織損傷②			P.348-350	教科書・ノート・筆記用具		
第9回	まとめ			P.325-350	教科書・ノート・筆記用具		
第10回	試験						
実務経験と本講義との関連について							
柔道整復師として、接骨院勤務、整形外科勤務、スポーツトレーナーを経験。研修会や接骨医学会に所属。以上の経験を基に手・指部の外傷、障害について説明していきます。							
メールアドレス							
e.ito@nihonisen.ac.jp							